【短歌】
楠瀬　兵五郎　選

かの時の海酸漿を思ふとも砂のなぎさのふみ堪へなし　佐竹　玲子
痛む背に早く灯を消し眠らむか啼く虫庭に止むとしもなく　小松もとみ
ふと子規の句を思ひつつこの年のわが好物の柿の皮むく　坂上のぶ子
木の葉散る風の寒さに咲きさかる紫夏すみれに水かけてゐる　都築　初代
若き日に月賦に買いしネックレス腕に掛けて見持ちては眺む　鍵山　春子
七回忌迎える如く我が庭にコスモス咲きて千の風吹く　有澤　春江
声援に腰も伸びたり米寿なる友は扇をかざして踊る　有沢　泰子
萩垂るる山切り取りて広げし道棚田に牛を追いし人々　門田　喜美
待ち待ちし退院今日を許されて心晴々浮き立つわれは　山﨑　緑
案山子見に坂にためらう吾の手を左右に取りくれし男女の学生　横田直加子
すべるごと大き夕日が落ちてゆく山もお寺も夕焼け小焼け　大石紗智子
赤白の声援とび交う秋の空老いたる身にも童心さわぐ　尾立　かよ
与野党の席数よりもこの社会明るくなりたし始まる国会　竹村　稔美
結婚の際に贈りしを二十余年土鍋健在と友の微笑む　古川　安子
地味なれど心豊かに生きる郷瀬音山風夕焼けの空　明石　満子
木瓜の枝に二つ実が生る珍らしく太りゆくさま楽しみにして　山下　弓枝
一輌の電車に及ぶ菊日和次つぎ眠る魔法のやうに　町　耿子
七十六歳数えて降りし二百七段愛宕社神の寺田寅彦の碑　古谷　由美
岩を指し高い高いを何度でも目を点にして母とたわむる　伊藤　清子
点在する石白々とそれぞれに表情のあり芒の中に　佐々木真里
大杉のこずえに月はくらくして悪鬼をはらう神楽続けり　宮地　亀好
祝はむとはるばると来て集ひたりふるさと恋ひし碑の前　小野川惠仁
渦を巻く欲望の列さびしさを埋め合せるか開店セール　法光院俊子
病み妻の具合窺い誘い出す紅葉見るも我が意のままに　高野　和一
ふるさとは五葉ツツジの高板山吉井勇の御在所の山　森本　幸美
吾もはや後期高齢者敬老の会に呼ばれて祝われており　小原　子川
こわごわと嬰児抱けば口元は乳さがすしぐさ命あふれて　楮佐古きよ
惜しみてはまた蔵ひゆく年の暮娘の落書きもわが宝物　山﨑　貴子
柚子採りの柚子がわが家に転び来ぬ小春日和の柚子採りの声　西尾　玉喜
紅葉してダムの水面に映ゆる樹々さざ波寄する里の静けさ　谷内　務
綿雲のぽっかり浮かぶふるさとのこの空がいいこの空が好き　吉本　悦子
新玉の年の始めにわが思う古人の言のよろしさ　公文　千恵
民雄さんと親しまれつつ畑作る町長なりし驕りなどなく　小松　隆之
ヘルペスのあとの神経痛の痛みさえ告げる者居ず独り耐えいる　山﨑かつみ
台風と猪に倒されし稲を刈る百二十日間守りたるのち　大石　綏子
冷泉さんの古式ゆかしく唱和する歌の響きにわれも酔いしれ　門田　明子
政権の変わりて初の国会質疑いずまい正して論戦を聞く　北村佐喜子
ジーパンの腰ポケットに携帯のストラップゆらし闊歩す少女　公文　正子
夕映えに黄金の稲穂かがやきて風吹き渡り刈入れまじか　小松　禮子
赤々と今年実多きピラカンサ鵯のおとづれ心待ちにす　高橋　章
送られし茶碗に飯盛る湯気ほのかはにかみてゐし孫の小心　武内　弘子
それぞれのかたちに老いら眠りをりわれは如何なるさだめを眠る　竹村　咲子
別府峡の紅葉が招く行楽の吾もその中一日を癒す　出原　久子
毎日のニュース聞くたび涙する遠くに学ぶ孫娘を案ず　林田　幸子
オミナエシ、ススキ、ナデシコ、フジバカマ身近に揃う秋の七草　松中　賀代
何といふ寂しき音ぞ夕時雨ただひとり居の裏窓を打つ　鍵山　みつ
楷をここに植ゑしこころや志失せゆく国の土佐のかたすみ　楠瀬兵五郎

※俳句・短歌の応募は、企画課内広報委員会事務局まで。投稿方法は自由です。なお、選者の添削を不要とする方は添削不要と記してください。

図書館だより

市立図書館

読書週間『おはなし会』楽しい時間になりました

本館

11月14日、『秋のおはなし会』を行いました。エプロンシアターや、絵本の読み聞かせ、いろいろな野菜が登場する手遊びを親子で楽しみました。また、牛乳パックで作るカメラ（シャッターを引くと絵が変わる）作りはアイディアあふれる絵を上手に描き、楽しい作品ができあがりました。

物部分館

11月14日、物部地区文化展に合わせ物部ふれあいプラザで、おはなし会を行いました。今年のテーマは、『おはなしレストラン』で、食べ物を持ったぬいぐるみやポスターでディスプレイをし、スタッフもエプロンがけで雰囲気作りをしました。1部と2部で29人の参加があり、にぎわいました。

新着本の紹介（香北分館）

〔大人向け〕
▽いかずち切り（山本一力）▽自分の頭で考える（外山滋比古）▽インフルエンザにかからない暮らし方（和田耕治）▽お稲荷さんが通る（叶泉）▽いつか響く足音（柴田よしき）▽聖徳太子の密使（平岩弓枝）

〔子ども向け〕
▽にっぽんをたびするちずえほん（すがわらけいこ）▽カボちゃんのふでばこ（高山栄子）▽ピーターと象と魔術師（ケイト・ディカミロ）

おすすめの1冊

「天使と悪魔　上・下巻」
（作：ダン・ブラウン）

ギリシャ科学思想への批判をテーマとするこの物語は専門用語に苦労したものの、息づまる臨場感や展開される話の面白さにいつの間にか引き込まれていった。ローマを舞台に次々に襲いかかる犯行予告。そして殺人。地図を広げ、予告を推理してみるものの、とうてい私の頭で解ける様な生易しいものでなかったが、バチカン市国で実際行われているコンクラーベの様子など、新しい発見も数多くあり、芸術作品、建造物の宝庫であるバチカンにぜひ行ってみたいと思わせてくれた一冊だった。

GREEN（香北町）

吉井勇記念館だより

吉井勇顕彰短歌大会作品募集

3月20日（土）に開催される、第7回吉井勇顕彰短歌大会の作品を募集しています。

■作品募集要項

【作品】 1人2首まで。自作、未発表のもので主題は自由。応募用紙または原稿用紙に、住所・氏名・年齢・性別・電話番号・大会当日の出欠・送迎バス利用の有無を明記してください。学生の場合は学校名、学年も記入してください。

【出詠料】 千円（高校生以下無料）

※郵便為替または現金書留にて、投稿時に納めてください。

【締切期限】
平成22年2月8日（月）必着

【注意事項】
・受付後の作品の訂正はご遠慮ください。
・応募作品については、著作権等の一切の権利を主催者が有します。投稿後の作品の返却はいたしません。

【問い合わせ・申込先】
市立吉井勇記念館　吉井勇顕彰短歌大会　歌会係
〒781－4247
香美市香北町猪野々514
☎58－2220

吉井勇作品紹介

朝夕に
富士ををろがみ
祈るなり
清らにつよく
われを生かしめ

解説

昭和12年1月、吉井勇は息子滋を伴い東海を旅行した。流離数年、猪野々隠棲中であり、苦悩の日々を続ける中での旅。富士山を仰ぎながら、ひさびさに会う息子との楽しいひと時は、勇の胸に希望を抱かせた。どうか私の心が清らかで強くありますようにという思いで詠んだ歌。